資料Ｎｏ．６

区連会６月定例会資料
令和８年　６　月　２２　日
福　祉　保　健　課

各自治会町内会長　様

栄区福祉保健課長

夏季イベント開催に向けた熱中症対策について【情報提供】

１　事業の趣旨

屋外での夏季イベントでは特に熱中症が発生しやすく、近年、年間を通じて気温が上昇傾向にあることから、健康への影響が懸念されています。

夏季イベント開催に向けた熱中症対策についてのリーフレットを送付いたしますので各自治会・町内会でイベントを企画・実施される際にご活用ください。

２　お願いしたいこと

【区 連 長】ご承知おきください。
【地区連長】地区連合定例会等で情報提供をお願いします。
【単位会長】単位会長あてに資料を送付します。定例会等で情報提供をお願いします。
イベントを企画・実施される際にご活用ください。

３　送付書類

リーフレット「夏季イベント開催に向けた熱中症対策」

栄区福祉保健課健康づくり係
担当　門脇、梶川
電話　045-894-6964 / FAX 045-895-1759
メール　sa-kenkou@city.yokohama.jp

救急車を呼ぶか迷ったときは・・・

▶ 横浜市救急相談センター

【24時間対応】

☎ #7119（シャープ）　または 232-7119

音声ガイダンス
- 救急受診できる病院・診療所を知りたい → 1番を選択
- 今すぐに受診すべきか救急車を呼ぶべきか → 2番を選択

▶ 横浜市救急受診ガイド

パソコンやスマートフォンで、急な病気やけがの緊急性を確認できます。 ※各区消防署で、冊子版も配布しています。

〈イベント参加者への注意の呼びかけ例〉

- ☑ 帽子等を使いましょう
- ☑ ゆったりとした、汗を吸収しやすい衣服を選びましょう
- ☑ こまめに水分・塩分を補給しましょう
- ☑ 日陰の場所や自動販売機の場所を把握しましょう
- ☑ 涼しい場所でこまめに休憩しましょう

●出典

・環境省 夏季のイベントにおける熱中症対策ガイドライン 2018
http://www.wbgt.env.go.jp/heatillness_gline.php

・環境省 熱中症環境保健マニュアル 2018
http://www.wbgt.env.go.jp/heatillness_manual.php

〈パンフレットに関するお問い合わせ〉
横浜市健康福祉局健康推進課
電話番号：045-671-2451
F A X：045-663-4469

横浜市からのお知らせ

夏季イベント開催に向けた 熱中症対策

近年、気温が30℃以上となる日が増え、長期的に見て
年間を通じて気温が上昇傾向にあることから、健康への影響が懸念されています。
屋外での夏季イベントでは特に熱中症が発生しやすいことを踏まえ、
安全に開催するための予防対策をまとめました。
イベント主催者の方々はぜひご活用ください。

1 体制づくりをしましょう

医療体制の整備

★熱中症発生時の対応マニュアルの作成

1. 熱中症発生時の対応責任者や通報・搬送の対応スタッフを決める
2. 熱中症発生時の発生場所の特定方法、搬送者の搬送ルートを予め規定する
3. 気温等による変更・中止の基準を検討する

★救護所の設置

1. 熱中症が疑われる人に対応するために涼しい救護所を確保する
2. 現場で初期対応をするか医療機関での治療が必要かどうかの判断を行えるよう、スタッフと熱中症に関する知識を共有する

危機管理体制の整備

★緊急対応フロー等の作成・効果的な情報提供

1. 非常事態に備え、熱中症発生時の状況確認や応急処置等の対応の流れ（フロー）を作成する
2. 必要な連絡先を連絡系統図として1枚に整理し、関係者と共有する
3. 気温や湿度等の気象条件を把握し、リスクを含めて事前に共有し、当日の連絡を迅速に行う
4. イベントPRの際に、参加者に熱中症への注意を呼びかける

2 開催の検討ステップにより、柔軟に対応できるようにしましょう

●検討ステップ

Step 1 開催時期の見直し（暑い時期を避けた開催の検討）

▼

Step 2 実施時間の変更（朝夕への時間帯の変更、時間の短縮等）

▼

Step 3 開催場所の変更（屋外から屋内への見直しの検討等）

▼

Step 4 開催時等における熱中症予防対策・発生時の対応策の検討
暑さ指数（WBGT）等を参考にした実施・中止基準の策定等

※暑さ指数（WBGT）とは、熱中症に関連する気温、湿度、日射、輻射、風のデータを取り入れて数値化したもの

●暑さ指数（WBGT）ごとの熱中症予防運動指針

気温（参考）	WBGT	熱中症予防運動指針	
35℃以上	31以上	運動は原則中止	外出はなるべく避ける。特別の場合以外は運動を中止する。特に子どもの場合は中止すべき。
31～35℃	28～31	厳重警戒（激しい運動は中止）	外出時は炎天下を避ける。激しい運動や持久走は避け、こまめに休憩をとり、水分・塩分を補給する。
28～31℃	25～28	警戒（積極的に休憩）	積極的に休憩をとり、水分・塩分を補給する。激しい運動では、30分おきくらいに休憩をとる。
24～28℃	21～25	注意（積極的に水分補給）	熱中症の兆候に注意し、運動の合間に積極的に水分・塩分を補給する。
24℃未満	21未満	ほぼ安全（適宜水分補給）	通常は熱中症の危険は小さいが、適宜水分・塩分を補給する。市民マラソンなどではこの条件でも熱中症が発生するので注意。

暑さ指数（WBGT）の情報は環境省のホームページでご覧いただけます

WBGT 横浜 検索

横浜市防災情報Eメール

横浜市では、地震震度情報、気象警報・注意報等を始めとする防災情報をEメールで配信するサービスを行っています。
熱中症警戒アラートについても配信されます。
詳細は横浜市のホームページをご確認のうえ、ご登録ください。

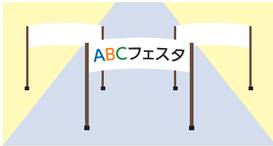
横浜市防災情報Eメール 検索

3 会場等での工夫をしましょう

工夫1 待機列を作らない工夫と日陰への誘導

- 長時間の待機をさせない（整理券の配布など）
- 「指定席」を導入して、席確保のための待機を少なくする
- 待機列をなるべく直射日光にさらさない（木陰や施設の陰に誘導する）
- 待機列の風通しを良くする（並列にならないように誘導する）

工夫2 開場・終了時の混雑緩和



- 入退場するゲートの数を増やす、幅を広くする
- 特定の場所や時間帯に観客が集中しないようにイベントのプログラムを考える
- 待機のために広い空間を確保する

工夫3 休憩場所、飲料の確保

- イベント参加者が休憩できる場所を設ける
- 自動販売機等の欠品を防止する

工夫4 施設等の分かりやすい表示

- 自動販売機、日陰の場所、救護所、トイレ等の場所を分かりやすく案内する
- スタッフを目立たせ、参加者が声をかけやすくする
- 参加者に熱中症への注意を呼びかける

4 熱中症が疑われる場合は、重症度に応じた対応をしましょう

重度の症状が見られる場合は、救急車を呼びましょう

●熱中症の症状と対応

重症度	症状	対応
軽度	めまい、筋肉痛、大量発汗 ※熱中症が重度になると発汗がなく、乾いた皮膚になるので、汗だけで判断しないことが大切です	① 涼しい場所へ避難し、衣服をゆるめ体を冷やす ② 水分・塩分を補給する ③ 安静にして休憩をとる ④ 回復したら帰宅する
中程度	頭痛、気分不快、吐き気、嘔吐、倦怠感、虚脱感	① 涼しい場所へ避難し、衣服をゆるめ体を冷やす ② 水分・塩分を補給する ③ 自力で水を飲めない・症状が良くならない場合は医療機関へ（必要に応じて救急車を呼ぶ）
重度	意識障害、けいれん、手足の運動障害、高体温	救急車を呼び、医療機関へ